



99号 350円

均等法でこう変わる 28

夫婦未完成平等曲 美森成生 18

△あこら京都▽十年の歩み 塚崎美和子 22

呼びかけました 集いました△あこら鳥取▽から 24

京田初美 那須友子

3

「ドイツ・青ざめた母」 林委子 小坂啓子

そして、私たち 田代慶子 小原典子

渡辺てるみ

怪傑ハウスハズバンド和音不協和音 丹藤正代 21

朝日新聞反中絶記事をめぐって△阻止連ニュース▽より 26

第二回国際フェミニスト会議 33

嵐山で感じたこと 福本のりこ 33

各地の〈あごろ〉へどうぞ (カッコ内は
例会日と会場)

□あごろ旭川 (第3土曜・13時30分—16時)

- ・北海道上川郡東川町西5号南3 小坂啓子
- ・電話 0166=82=2598 〒071-14

□あごろ札幌 (毎月13日喫茶「ミドリ」)

- ・札幌市西区琴似1条6丁目グランドハイッツ琴似
408号 細田英理子
- ・電話 011=644=2927 〒063

□あごろ仙台 (時間、会場とも流動的)

- ・仙台市茂庭字生田前4-65 三船照子
- ・電話 0222=45=5994 〒982-02

□あごろ柏 (時間、会場とも流動的)

- ・千葉県印旛郡白井町大山口1-7-20 桑原ちあ子
- ・電話 0474=91=4843 〒270-14

□あごろ新宿 (時間、会場とも流動的)

- ・新宿区新宿1-9-6 斎藤千代
- ・電話 03=354=3941 (BOC) 〒160

□あごろ武蔵野 (第4土曜・19時)
(かわら版事務所)

- ・小平市小川町1-763-86 丹羽雅代
- ・電話 0423=43=6749 〒187

□あごろ京王 (第2水曜14時—16時
福井宅または調布婦人会館)

- ・調布市仙川町3-12-32 福井浅子
- ・電話 03=308=7871 〒182

□あごろ湘南 (時間、会場ともに流動的)

- ・平塚市公所478 小川まり子
- ・電話 0463=58=6707 〒564

□あごろ東海 (第4木曜・10時—12時半)

- ・愛知県愛知郡東郷町白鳥4-5-1
押草団地113-305 石川方 加藤登紀子
- ・電話 05613=9=2308 〒470-01

□あごろ京都

- ・京都市左京区一乗寺築田町56-1 塚崎美和子
- ・電話 075=791=4623 〒606

□あごろ大阪 (第3日曜・11時30分—15時)

- ・吹田市岸部中1-29-4 藤井里子
- ・電話 06-387-6574 〒564

□あごろ山口 (第1日曜・11時—17時)
森川宅

- ・下関市長府黒門東町1-15 森川万智子
- ・電話 0832=46=3181 〒752

□あごろ九州 (第2土曜・14時30分、第4土曜
18時30分、福岡市立婦人会館)

- ・福岡市中央区笹丘2-4-6 小島サカエ
- ・電話 092=521=7624 〒810

□あごろ佐世保 (第2・4金曜10時30分—
12時、佐世保市立図書館)

- ・佐世保市瀬戸越町1415-25 内田佳崇
- ・電話 0956=49=8591 〒857-01

「近ごろ最も感心するもの」と
故吉川幸次郎氏も激賞されたすぐれた評伝

門 玲子著

江馬細香

——化政期の女流詩人——

頼山陽を「心の恋人」として終生愛しつづけた
江馬細香(えま・さいこう)は、詩人として、
また書画にも秀でた才女であった。
七年にわたる克明な研究を基に、「恋の空想」
として描き出したその清冽な生涯は、美濃蘭学
の祖と言われる医師を父に持つ進歩的・学究的
な家庭と、次第に風雲急を告げる幕末の時代を
背景として、江戸時代の傑出した女性像と女流
文学を、高雅に、鮮明に、浮き彫りにする。

(四六判 三八三頁 定価一八〇〇円)

BOC出版部刊

ドイツ・青ざめた母

DEUTSCHLAND BLEICHE MUTTER



『ドイツ』

私にも自分の恥を語らせておくれ

ドイツよ 青ざめた母よ
他の国々に
汚れた姿をさらし
じっと座っている

哀れな息子は
打ちのめされ
飢えていた時に
他の兄弟たちは
彼に手を上げた

その息子たちが
母なる汝をも
あざけり
さげすむことは
周知のこと

汝の家では
虚言が巾きかせ

真実は語れぬと
いうは事実か？

圧制者は汝を称え
犠牲者は汝を非難する
搾取される者も
汝を指弾し
搾取者は
汝の家風を褒む

されど、人は見る
汝の衣の裾に
汝の最良の
息子の血を

汝の家より洩るる声に人々は笑い
汝を見れば身がまえる
盗賊女を見るごとく
ドイツよ 青ざめた母よ
悪い息子たちのため
他の国々にとって
物笑いとなるか 恐怖となるか
ベルトルト・ブレヒト(1933年)

『ドイツ・青ざめた母』そして 私たち

△出席者▽

あごら旭川

京田 初美

那須 友子

林 委子

小坂 啓子

田代 慶子

あんふぁんて旭川

小原 典子

渡辺 てるみ

文化と国民性の違い

渡辺 ダンスシーンで音楽なかったでしょ。

あれ、不気味だったなあ。

小坂 ナチスの旗がバタバタ……。

京田 今後の展開を象徴しているようにね。

渡辺 あれ、うまいなあと思った。それと、

出産シーンが非常にリアルで、「そうよ、こ

ういうふうなのよ」って。日本映画だと、陣

痛はなぜかすぐに「いたたたた」ときて髪ふ

り乱して、やたらめったらいきんでみたりね、

芝居がかってる(笑)。

田代 『声なき叫び』の監督も、確か女性だったよな。あの映画での強姦シーンも、男の監督とは視点が違ってたでしょ。

渡辺 あれは、被害者の立場をアピールしてたんじゃない？

田代 『ドイツ・青ざめた母』での強姦シーンは、当事者たちの行為を全く描写しない手法を取ってたよな。そばで見ている子どもを写して、すべてを観客の想像力に委ねていた。

小原 森の中を歩きながら童話を話してたでしょ。あれ、何とも言えない感動だった。

渡辺 荷物をしょって歩く姿のとき、ああ、やっぱり母は強いなあって思った。

小坂 あの童話が暗いのね。グリム童話の残酷な部分がすぐ出てきて。少女がお嫁に行こうとする話でしょ。監督の「私は結婚しなかった。父と母を見てたから」という語りを考えると、彼女の幼児期の思い出が、あの童話に象徴されているんだなあって思った。

小原 すごいなあと思ったのは、ころがって死人からマフラー取ったでしょ。表情も変えないで。今、自分にこの人は必要ないんだって感じだね。そしてまた、黙々と歩き始めたでしょ。ああいう状態なら、私もやっぱりおんなじになるのかなあって。

那須 それから雪解けの後、森の中で死人がいたので子どもに見せまいとしたら、子どもが「見せて」って言って、見たよな。

渡辺 私が一番感動したところは、強姦されたヘレネが、けろっとして「女も戦利品なのよ」って娘に言ったセリフね。私、そこがね。

京田 割り切ってるというか……。

渡辺 うん。日本人と外国人との違いってのを感じたのね。

田代 あの場合では、子どものショックがせめて少なくて済むようにと強がりっぽく言ってるけど、自分の中には深い傷が残ったんじゃないだろうか。もしかしたら、顔面神経

マヒのひきがねの一つになっているかもしれない。

京田 彼女にとっては、自分を旦那との愛が唯一で、他の付随していることはひっからなくていいんだみたいなね、戦争だから仕方ないみたいな考えの人なのかと思った。

林 そこで諦めなかつたら生きられないんだよね。人間の生きてく知恵なんじゃない？

小原 それにしても大陸的な映画だよな。

渡辺 国境ひとつ越えたら、言葉も習慣もお金も価値観も違ってしまいう陸つぎに住んでいる彼女らと、島国の私たちとの違いね。子どもを連れて逃げるのに乳母車を使う国と、私たちがみたいにおんぶする国と。がれきを運ぶにもスカートはいてハイヒールはいてやるのと、もんべや国民服でね、みんなが同じにしないと村八分にされる国との、根本的な違いっていうのをまざまざ見せつけられた。

小原 日本の女の人が同じく描いたとしたって、ああいうたくましさや大らかさは出て来ないんじゃないだろうか。

渡辺 日本の戦争映画には、どうしても悲惨さがつきまといちゃうのね。

小坂 フランスも戦場になったでしょ。ポーヴォワールの本なんか読んでも、やっぱり

あらすじ

平凡なドイツ娘ヘレネは、非ナチス黨員で優しい男ハンスと結婚して幸せだった。が、それも束の間、第二次世界大戦が始まると、非黨員のハンスは真っ先に徴兵され、ポーランドの最前線に送られる。

ヘレネを愛するハンスは、戦場で娼婦も買わず、仲間の兵士に笑いものにされながらも、ひたすら彼女を想い続けるが、休暇で帰ってきたとき、荒々しく彼女を求める。ハンスに見せようと縫った美しいブラウスを引き裂かれて驚いたヘレネが彼を拒絶すると、ハンスは彼女が浮気をしたと罵る。これが戦争によって生じた最初の夫婦の溝だった。

爆撃のさなかヘレネは女の子を産んだ。空襲で家を破壊された後、子連れで親戚を頼っての長旅に出たヘレネは、次第にたくましい女に変貌していく。まだ幼い娘の目の前で、連合軍兵士に輪姦された時も「勝つ者の権利なの。女も戦利品だわ」と言っていくけない。終戦後闇市で屑を売って生計をたて、娘アンナもすくすくと少女に

成長した。

ハンスが戦争から帰って、親娘三人の生活が始まったが、元の幸福な家庭は戻ってこなかった。ハンスはヘレネに優しく貞淑な妻であることを求めるが、ヘレネは戦争を通して一人で生き抜くことを知った女性である。自我とそのエネルギーのやり場を失い、ある日ヘレネは顔面神経マヒをおこす。ハンスは歯医者に連れて行き、ヘレネの意思もきかずに彼女の歯を全部抜くことに同意する。

ハンスは仕事の昇進に一喜一憂し、ヘレネは抜歯のショックで床にしている。アンナが母のためにスープをこしらえるが、ヘレネは受けつけない。アンナの顔に投げつけてしまう。

ある日二人はいさかいをし、ハンスが出て行くと、ヘレネは浴室のガス栓をひねってとじこもる。戸を叩いて母を呼び続けるアンナ。不安と緊張のひとつきのうち、ヘレネは浴室から出て来るが、泣きじゃくる娘を胸にまばたきもせず放心状態で遠くを見つめていた。

こんなふうで明るいね。何回も戦争に遭っているからかなあって気もしたんだけど。

小原 未だに信じられないのはね、本当に乱母車で逃げられたのになって。

小坂 乳母車のほうが荷物が積みやすいよね。

小原 道幅なんかも日本と違って広いから。

渡辺 乳母車はその頃、日本にはなかったのよ。鍋も釜も全部出したじゃない。リヤカーよ、リヤカー(笑)。

田代 それに、日本の建物はほとんどが木造でどんどん火の海になっちゃうから、乳母車があったとしてもかえって危ないよね。

小原 そういえば焼け跡が全然違った。日本はきれいになくなってたけど、あちは建物なんかも外側が欠けた形で残ってた。

京田 それに日本は食べるものもろくになかったから暗くなるんじゃないのかね。

戦争が人間を変えた

京田 私の母には婚約者がいたのね。婚約して、兵隊に出て行って、帰って来ないわけ。

その婚約者がすごいすばらしい人(笑)、母がその人と結婚すれば私は居なかったわけ(爆笑)。相思相愛だったのに、お見合いで今の父と結婚したんだけど、「戦争のために、

本当に結婚したかった人と結婚できなかった。私の人生はもう終わってしまった」みたいな感じの母の昔の生活を見ると、やっぱり戦争は人間に同じ程度の打撃を与えてるんだなあって気がした。

好きな人と結婚できなかった哀しみっていうのは、戦争を思うときにいつも思い出してね。戦争がなければ決してああいいう形にはなってなかったんだろうなって。

渡辺 でも、どこかで夫婦間の危機は来たらんじやない？

小原 戦後、党員の友人がどんどん出世していった、ハンスはすごく苛立ったでしょう。ああいうのって、戦争と関係ないんだなって思った。

京田 真面目に生きてる人間ほど、戦争によって変えられてしまう。どうでもよく生きる人間はそれなりに生きるんだろうけども。

渡辺 それは、今のサラリーマン社会の中でも言えるんじゃない？

京田 小此木啓吾さんがモラトリアム人間の話で言ってたけど、今の熟年の男たちって、戦争に行つてすごく気持ちが高揚した。戦後の高度成長時代にまたぐーっと高揚するんだけど、その後の停滞期に入つてすごく落ち込

んでる人が多いって。平和になったときに、目的がなくなつてしまった自分を発見して、生きざまがわからなくなるって。

ヘレネもハンスも、戦争を契機にそれぞれ目標を持つて生きてたんだけど、戦後、それがなくなつて落ち込んだんじゃないかな。

小原 結婚したときはお互いに本当に愛し合ってたでしょ。それが、ハンスは「殺さなきゃ自分が殺される」という立場でだんだんと変わっていく。彼女も夫の不在の間に子どもを産んで、この子のために頑張らなきゃという、母親性がモロに出てきちゃったでしょ。「戦争」の見方も変わつてきたような気がした。

京田 変わつてきたというより、戦争によって変えられたんだと思う。戦争で考え方がガラッと変わったという映画が多いけど、林先生なんかどうなんだろう、経験者として。

林 私は戦争中子どもだったから……。

京田 ハンスは戦争の色を自分の中心にだんだん受けていく。それにヘレネがついてけないうていうか……。ハンスだって最初抵抗していたのに、最後はああいうふうな形になる、戦争の前には、人間ひとりの力ではどうしようもないものかなあって思つたね。

渡辺 ハンスが最初の休暇で帰って来た時点で、お互いに自分の気持ちとか立場とかをもっともつと話し合うのかなって思ってた。肝心な部分を逃げてしまった。たとえば、私たち夫婦でも、ちょっとしたことをトコトン話し合う時にものすごい体力とエネルギーを要することであるわけね。お互いの気持ちの溝を埋めるために話し合うのは、自分にとつてもしんどいことだし。でもそこでね、ブラウスの刺しゅうを見てほしいのと、即抱きたいっていう違いをどうして埋めなかったのかなあって。客観的に見てる立場だから、あそこで話し合えば良かったのよって言えるのかもしれないけども、実際、私たち夫婦の中にもそういう場面がいくらでもあるのね。京田 戦争のない普通の状態であればね、話し合いもあり得るかもしれないけども。渡辺 日にち区切られて帰って来てるってのは、切羽詰まっちゃうんじゃないのかなあ。小原 あのと、家もまだ壊されてはいなかったでしょ。そういうゆったりした状態にいる妻と、すごい現実には彼とのギャップっていうの、あったと思う。京田 人を殺した経験があるかないかの違いは、大きいよね。

渡辺 ハンスは最初、泣いたじゃない？
小原 そう。妻に似てるから殺せないって。それと、コンドームが支給された時に、妻を愛してるからって断わったでしょ。そしたら物笑いにされちゃった。あの状態から考えてね、ハンスが初めて帰って来た時にすぐ妻を抱きたかったのはすごくわかるのね。男性的な衝動もあるだらうけども。
田代 ハンスの、その潔癖すぎるまでの愛が、結果的には裏目に出ってしまった。戦後、ヘレネがその気になれないことに対しても、「浮気したろう」といった発想しか出て来ない。那須 強姦の影響が、妻の反応の部分に、もしかしたらあるかもしれないね。
小原 でも、強姦のことは言っていない。
那須 言っていないけど、自分の心の中で……。
小原 あ、ひっかかっているというか……。
渡辺 強姦と、愛ある性行為だったのは、同じ形なんだよね。女が望むか望まないかの紙一重のところでさ。
小坂 強姦された妻はね、やっぱり、夫から優しいセックスを受けることによってしか、強姦の傷が癒されなかったの。だから、癒やされることはなかったんだと思う。渡辺 両方とも、すごく不器用なのよ。

お互いに何とか自分の気持ちを言おう言おうと思うんだけど、口から出る言葉ってのは裏腹だったり、感情的に言ってしまったり、そういうたちゃとしたすれ違いがずっと続いているような気がするのね。自分をぶつけるほうが先で、相手の立場とか気持ちを考えることは二の次、三の次になっちゃった。林 ということは、どういう時代であってもどんな背景にあってもね、男女に生き方の違いがあるでしょ。日本なら、女が家にいて男が外に出て、違う場所で活躍してるわけね。帰って来て顔を合わせるけども、一日の報告をお互いにするんじゃないから、くい違いがふくれ上がっていつ、「私はなんて不幸だったんだろう」(笑)なんて、そんな思いで死んで行くの多いんだよね。
渡辺 あの夫婦(監督の両親)、まだ生きてるのね。娘が、「お母さん、こういう時、どうだった？ お父さん、あの時、お母さんのことどう思ってた？」って聞きながら映画を作った。で、この映画を見てから、ああそうか、あのとのおまえはああいう気持ちだったのかっていうのがお互いにわかってきて、現在はうまくいきつつあるんですよ。

妻の一生を台なしにしたのは夫？

田代 ヘレネが、爆発して半狂乱になったところがあったでしょ。あのとき口走った言葉の中で、「あなたは私の一生を台なしにしたわ」っていうのは、何を指すと思う？

那須 ここ、ちょっと私わかんなかったね。

田代 娘（小六）も一緒に試写を見たのね。

で、見終わってから、今と同じ質問をしてみたの。娘が言うには、「歯医者さんに連れてったから？」って。

京田 あの歯医者さんに行つて歯を抜いたってことは、ハンスがヘレネのことをいとしく思つてないというか、愛情関係がここであるっきり切れてることの証明というかさ。

小原 でも、歯を抜かれるとき、彼は自分のことのように痛そうな顔をしていただけ。

京田 取らないでくれているのをなおかつ退けて抜かせた行為についてね、彼女はどう、ここで完全にああ、もうだめなんだって思つたんじゃないのかな。

小原 でもあれはね、取らなかつたら死ぬって言われたから取つたんじゃないの？

京田 それはそうだけでもね、本当に愛合つてゐる夫婦で、奥さんの気持ちを大事にした

っていう夫婦であればね、ああいう行動には出なかつたんでないかと思う。

小原 ハンスが喜んで帰つて来たでしょ。昇級したつて。顔がこういふうになったのつてヘレネが言つたときに「全くしょうがない。こんな時に」とかつて、そういうセリフ吐いたんだよね。あの時にさ、一瞬「嫌だ！ この男」って思つた（笑）。

京田 歯を抜いたところでもう本当に結着つけたというかさ、離婚もんでないの。

渡辺 私はそこまでつっこんで見なかつた。医者言う言葉つていうのは、私たち盲目的に信じちゃう部分があるから。

小原 あの時点ではしょうがなかつたのでは。京田 ただ、死んでしまふつて言われても、奥さんの気持ちを大事にしようと思う夫であれば、そのまま抜かせるだろうかつて思うよ。

小原 違う医者へ行くとかね……。

京田 夫夫婦の絆がこれで完全に切れてしまつたと思つて半狂乱になつたんじゃないの。

田代 あの歯医者には、旦那に向かつて聞いたんだよね。まるで、保護者に了解を求めるといった感じだった。

京田 あの苦しみは奥さんの苦しみなのに。

渡辺 でも、私たちもそうだろうか。

全員 ん？

渡辺 現在の私たち夫婦もね、夫の苦しみは私の苦しみだろうか？（笑） 対等の苦しみにはないような気がする。

小原 たえば夫が夜中に苦しがつて、救急車で運ばれて、お医者さんが今すぐ手術しなかつたら命の保証ないですよつて言つたら、ハイして下さいつて言つちゃうと思うのね。

京田 本人が嫌だつて言うのになおかつたつてことに、私はすごい抵抗を感じるね。

那須 歯を抜かれた後で日除けをおろしてベッドで寝たときに、娘が「スリーブを作ったから飲んで」つて持ってきたでしょ。それから黙つて娘の顔にふりかけた。あれはどういうことなんだろう。

田代 彼女はあの瞬間、発作的に、ハツ当たり的にやつてしまつたんじゃない。夫にぶつけないところをね。私の娘が一番ショックを受けたのがあの場面だったつて。あの後、親戚の家へ行つてスリーブが出たときに、あの子おもらししちゃつたでしょ。その理由はお母さんにしかわからない。あの時は、娘の気持ちがよくわかる母親に戻つていただけ。

小坂 「私の一生を台なしにした」つていう

のはやっぱりね、明るい愛のある生活を失ってしまったっていう意味だと思う。夫に依存してるわけでしょう、女の人が。そういう意味で、夫に全部ひつかぶせてしまったんだと思うのね。

小原 戦争中にさ、ヘレネは母親になりきっているでしょ。すっかりしなくちゃという気持ちの張りが、ものすごくあったと思うのね。それが、戦争が終わって夫が帰って来ると、全部夫に頼ろうっていう切り替えがあった。那須 今まで失われた新婚時代の甘えたいという気持ちね。ところが夫は精神的にくたたくなって帰って来ちゃって、それを受けられるゆとりがなかったと思うのね。

渡辺 まして、党員だった友人はどんどん昇級してっちゃうしね。

小坂 彼女はね、慰めてはしなかったと思うの。子どもを一人で出産して育てているでしょ。強姦にも遭って、そしてやっと夫が帰って来たと思ったら不能になっていて肉体的な接触すらなくなってしまう。慰めてほしい気持ちを持ち続けちゃったところ、彼女の不幸の原因だと思うのね。

病氣から解放されるには

渡辺 顔面神経マヒって、何かの象徴みたいなものってあると思うんだよね。

京田 愛の不毛っていうかさ。

渡辺 今はアル中に走る人もいるだろうし。小原 心の内面が外に出て、顔面神経マヒになったってことをすごく象徴してると思う。

田代 ある日突然、口が動かなくなったんじゃないんだよね。顔面神経マヒのきざしについて、気をつけて見てた人、いる？

小原 最初の休暇で帰って来たでしょ。そして口論になった時に、ヘレネがビクビクって顔をこわばらせたの。あの時から始まったんだと思う。

田代 丹精こめて刺しゅうしたブラウスを、夫が邪険に扱ったときね。

小原 それから、「浮気したろう」って言われたときもね。

渡辺 中にさ、閉じこもっちゃったのよ。

小原 戦争で夫が取られた時点から、少しずつ少しずつ出てきたんじゃないかな。ホラ、召集命令が来たときに紅茶ポットを落としたでしょ。せっかく結婚して、これからハッピーな生活を迎えようとしてるのになって。

京田 結局、顔面神経マヒの原因も戦争だったことがあるのよね。

田代 戦争が下地になってるみたいね。直接には、夫との間の深い溝を痛感させられたときに症状が出ていたけど。

京田 これは反戦映画なの？

渡辺 うーん。じゃなくて記録フィルムみたいなものだと思う。

那須 私の感想としては、男の人と女の人が出会って夫婦ですつとやってく、それが戦争を舞台にしているんだけどね、結局、扱ってるのは夫婦や男女間のことみたいに思う。

田代 『パンのみみ』で、この映画の特集を組んでたんだけど、そこには「人間の心の機微を戦争が打ちこわした——それを女性の観点からみた戦争映画」、「あの戦争からずっと連続している現在、そこに問題を重ねている」と表現されていた。つまり、これは戦争の物語でもあり、現代人の心の物語でもあるってとこかな。

小原 顔面神経マヒになった時、ヘレネは家中暗くしてずっと寝てたでしょ。自分が健康だから言えるのかもしれないけれど、もう少し明るく生きてたら、夫ともあそこまでの距離がなかったんじゃないかなって。

京田 でも明るく生きるためには夫の愛が必要だったんだからさ(笑)。

田代 歯を全部抜かれた直後でしょ。減入るのがあたりまえだと思うよ。人相だって歯がなくなるとガクンと老化するわけだし……。

渡辺 自分の中の自分との対応ができなかったのよ。顔面神経マヒを自分の中に受け入れるまでに、ある程度時間がかかったのよね。

求める愛の質が違ってたような気がする。別にスキシンシップだけじゃなくて……。

田代 ヘレネは、正面切って自分を責めるのが怖かったのかもしれない。自分でも、「命を失うよりは……」と思ったから、あのとき逃げ出さなかったわけでしょう。でも、全部抜かれて、しかも後で誤診だったとわかったときには、されるがままに全部抜かせてしまった自分に対して、情けなさ、苛立たしさ、やりきれなさといった感情がこみあげてきただろうと思うの。医者も医者だし、拒み通さなかった自分も自分だけど、あんたもあんたよって、それまでのフラストレーションもひってくるめて、夫を一番の重罪人に仕立て上げてしまった。自分が自分を大事に思う以上に夫から大事にしてもらいたかったけどそれが望めなかったから。でもね、そうやって、夫や

戦争のせいにし続けている限り、ヘレネは病氣から不幸せからも解放されないんじゃないだろうか。

人は無口なほうがいい？

田代 二人ともデリケートすぎて、相手がイヤだと言ったらゴリ押しはしない。そういう、ある意味での物わかりの良さが、ますます溝を深くしたくなって気もするんだけど。

林 あれね、がまんして、もしかしたとするでしょ。そのあと、相手が自分をわかってくれるという状況に変わっていけばね。ひきつりも和らいでいくってことも考えられる。

小原 たとえばさ、セックスした後でさ、「さっきのブラウス気づいた？」って。「あなたに見てもらいたくて刺しゅうしたのよ」って言うてたら、また別だったかもしれないね。小坂 二人ともお互いを待ってたのに、待ちすぎて待ちきれなくてね、それがこう、すれ違っちゃったんだよね。

渡辺 男の生理と女の生理の違いだね。

小坂 女は、会ってすぐ服ぬぎたいなんて思わないもの(笑)。

京田 女でもさ、また違う女もいるかもよ。小坂 あ、そうか。ごめんなさい(笑)。



小原 性格的なものじゃないかな。仲直りしてから、ベッドの中で言ったでしょ。「子どもが欲しいわ。あなたに似た子どもを産みたいわ」って。

林 愛の証しみたいなものをお互いに見たかったんでしょ。だけど見せきれないうちに、ぶつかっちゃったから火花になって、ますます

す大きくなっちゃった。「家庭を守って子どもを育ててご苦労だったね」という一言と、「戦場に行ったら大変だったね」という一言ずつがあればね。

小坂 本当に、いたわりの言葉、ひとつも出さなかったよね。

京田 強調した映画だったのかもね。

渡辺 でも、私たちお互いに言わないでしょ。言わなくてもわかるだろう、っていうなれあいの雰囲気とか……。

林 だから離婚が出てきてる。目ではなくて、やっぱり言葉で会話を持たなければ……。

渡辺 今晚言おう(笑)。

小原 そうだよな。なにげない時にさ、閉ざされてた心がその一言によつてときほぐされちゃうってのはすごくあるよね。

京田 その、一言ボコッと言うってことが大事なよ。

小原 言っではいけないけど言ってくれないというか……(笑)。かといって自分も言えるかしたら、言えないでそのまま過ぎちゃう。

渡辺 うん。照れくさいわね。

林 こないだ疲れちゃってね、子どもたちの洗濯、もういいかげん大きくなってるのに、と思いがちやあって、「いやあ、もう本当に

疲れちゃった。あんたたち、洗濯物、干しなさいよ。こまでしたから」って言ったらさ、それでもテレビ見てて、二人がソファにドンと座ってるわけね。連れ合いがそれを聞いて、「ほら、おまえ、少しやってやってくれよ」って、子どもに頼むような言葉をかけてるわけ。日常言わないけども心にそういう、私が働いていて家事をしている、ご苦労だなんていう気持ちとはどっかにあるのね。

小原 面と向かって言わないだけでね。

林 そういうのがわかれば、鉢巻きして頑張ってたのがだんだんはぐれていくような、そういうものだと思うよ。

田代 映画の初めのほうのところで、「人間は無口なのがいいと母は言っていた。でも私は母から言葉を教わったのだ」というナレーションがあったでしょ。あれ、難解だなあと思ったのね。確かにヘレネは、口でしゃべることは少なくて、ただ、どうしても嫌だという時は生理的に拒絶反応をおこしている。小原 結局、必要以上のことはしゃべるってことなんじゃないかな。いざという時にはしゃべってこと？

渡辺 母が、自分が無口なために心の中にこういう傷を負ったから言いたいことは言いな

さいよっていうことなんだろうか。

田代 だから彼女は映画監督(表現者)の道を選んだ。でもね、彼女は知らず知らず、無口を母親から受け継いってしまったように思うの。この映画、省略が多かったでしょ。無駄とか遊びとかがほとんど見られなくて、ナレーションも中味がかなり圧縮されている。

親は反面教師

田代 この映画の場合、子どもの存在が夫婦の亀裂を一層深めてしまったとは言えないだろうか？

小原 子どもがいなかったとしても、この夫婦は違った形の戦争によつて考え方が変わってきちゃったかもしれない。

那須 そりゃ確かに二人つきりになりたい場面でも子どもが邪魔した感じのとこはあったけども、その後に時間はあったんだから……。

小坂 父親が子どもとうまくいかなかったでしょ。そうすると母親が子どもの側についてやうから、父親とまたうまくいなくなってきたっていうのもあると思う。

小原 もう少しゆずり合う気持ちがあったら、また少し変わってきたと思うんだよね。

京田 夫婦仲が悪いってことは、子どもにとって自分の存在を否定されるようなものだからね。

林 もしか息子だったら、どうだったろう？

小原 大きくなったら、父親側のがわかったかもしれないね。

田代 逆に、男対男で、もっとひどいライバル関係になっていたかもしれないし……。

渡辺 夫婦仲が悪いときに、うちの長男、次男はどうしたかっていったら、母親の気を引くのね。奇行とかさ、変わった行動をする。

女のはうが精神的にはタフなのかもしれない。男はなんて弱いんだらうって。染色体が一個違うというだけで（笑）。

小原 ナイーブなんじゃない？

渡辺 娘だったから、映画にしてみようなんて気がおきたのかもしれない。息子だったらいじけちゃってるね。

京田 もっと反発してるだらうしね。

渡辺 精神的なもろさってのが、男の中にあるのよ。

田代 映画の中で、娘のアンナはおもしろしただけでとどまったでしょう。でも、彼女自身にしてみたら恐怖だったと思うの。精神異常をきたしかけた母親を見て育って、自分の

中にも同じ血が流れていると気づいたときにね、母親とおなじ生き方はできないって、たぶん思っただらうなって。

京田 だから結婚しなかったんだね。

田代 うん。私が一番気になったのは、幼年期に母親を通して地獄を見たかった女の子が、そのあとどんな生き方をしたかということだった。だから、結婚しないで子どもを産んだってのがすごくよくわかったの。子どもを産んだら夫はいらないってことを、彼女は母親の生き方から学んだんじゃないかって。

渡辺 不幸だよな。男性不信になっちゃってるといふか、わかり合おうと思ったらわかり合える立場の異性である男をね、そこで切り捨てちゃってるってことがさ。

小原 でも、まだまだこの人は変わっていくと思うな。たとえばね、今までそういうふうにとってきたらね、また男の人に対しても見方が違ってくるだらうし、いろんな人と知り合おうと思うんだよね。

渡辺 でも、夫婦という形態はとらないかもしれない。

小原 そこまでは行けないというか……。私、疑問があるんだけど、子どもを作るから

には、それまで恋愛した男がいるわけでしょ。京田 恋愛して子どもを作ったのか、子どもがほしいから単純に作ったのか、それはわからないけどもね。

小坂 童話もね、おっかない男が出てくるわけでしょ。大男が自分を食べちゃうかもしれないという恐怖の童話だし、母親は強姦されてるし、父親の存在についても、やっぱり男不信に陥ってね。青春の一時期に人を恋してセックスしても、結婚することは生涯なかったというのとはわかんと思うのね。

那須 シナリオの一番最後にさ、「これは娘の物語でもあり、母の物語でもある」って書いてあるから、傷として……。

田代 幼児体験をひきずってるんだらうね。

單身赴任とどこか似ている

小原 これ見ながら單身赴任を思い出した。自殺した奥さんがいたでしょ。夫はロボットになったって。戦争でなくても、それに似た現象は今の日本の中にも起こってる……。

小坂 單身赴任で奥さんと何年も離れてる人が「俺、もう、一緒に暮らせないんじゃないかと思う」って言うの。一人だったら気が楽だって。奥さんもそうなのではないんだね。

小原 よく新聞に出てるよね。單身赴任があまりにも長く続くと、それぞれの生活のパターンが出来ちゃって、いざ一緒になった時点でぎくしゃくしちゃうっていうか、それで離婚する夫婦も意外とふえてるって。

田代 映画でも、「長かったから」っていう言葉、夫と妻が異口同音に呟いてたよね。でも、長かったから、戦争だったから、原因はそれだけかなって、私はあの夫婦に言いたい。

小原 私は結婚してまだ五年くらいしかたっていないんだけど、うちの旦那さまっていうのは、週に二回か三回必ず飲みでかける人なのね。だから、その時間帯ってのは、私も子どもを早く寝かせて自分の時間を作るわけ。やろうと思えば、ところがね、友達の旦那さんっていうのは、まっすぐ帰って来て毎日べったり家にいる。その友達がね、私に「寂しくないの？」って言うわけ（笑）。私は私でね、「寂しいことは寂しいけども、自分の時間を作るってことのほうが私はすごくいいよ。もし夫が一週間ずっと家にいたら、いらだてる」って。

京田 一緒にいていらだつてのは、女が男に奉仕しなきゃならないと思うからいらだつ

んであってね、一緒にいても個々に、したい時はするみたいな関係であれば別に……。

小坂 子どもがまだいなかったころ、静岡から来て、こっちに友達がいなかったこともあるんだけど、夫の帰りが待ち遠しくて待ち遠しくてしょうがなかったの。まだ甘いころね。

京田 あら、今は違うの（笑）。

小坂 だから、一晩でもいなかったら、きつと寂しかったと思うよ。幸い、毎日きちっと帰って来て、べったり一緒にいてくれたから良かったけど。

小原 私、考えたら、自分を殺してるところあるみたいな気がする。

京田 旦那だけのじゃなくてあなたと旦那の家庭なんだからね。

那須 たぶんまだ五年だから……。

小坂 自分が出て歩けるようになるとね、夫が出て歩いてくれたら、私も余計に出て歩けるから楽なの。

田代 子どもたちがまだ小さかった頃にね、「あんたはすっかりやりたいことやって、ずるいわね」って気持ちがあったの。だから、「子どもたちが大きくなった晩には私も……」ってしょっちゅう思ってた。「亭主は丈夫で留守がいい」って、昔からよく言うでしょ。今

はあの心境がすごくよくわかる。

小原 私は子どもが一人だから手がかからなくなってきたけども、二人、三人いたらここまで考えたかなって気もする。忙しさにかまけちゃって、そんなこと考えるゆとり、なかったんじゃないかって。私がそういうふうにしちゃった面があるんだよね。結婚当時、いや、恋愛中のころから……。

京田 そう。最初が肝心よ（笑）。

那須 日本の女は潜在意識的に「尽くしたい」ってのがあるじゃない？

小原 私は時々、叫ぶときがあるよ。こんなことくらい、自分でやらないでどうするの、私がいなかったらやるんでしょ、って言った「やる」って言うのね。じゃあなぜやらないのって言ったら、「これはあなたの仕事でしょ」って（笑）。

小坂 私のセリフ聞いて、「おれはおまえのママじゃねえ」っていうの（笑）。

京田 たまにじゃなくて毎日叫ばなくちゃだめよ。

田代 でも四六時中叫んでると、母親の小言とおんなじで、効きめが薄らぐんじゃない？小原 靴下からはかせる人もいるっていうからね、それに比べたらさ、まだ自分の着替え

はちゃんとするし、時たま台所に立ってくれるからいいなとは思うけどね。うちの場合、焼肉やってもらったらかなわないの。味がおいしいくて。だからそういう時ははめるわけ。

小坂 ほめるの、効くんだよ(笑)。

渡辺 さっき単身赴任の話も出てたけど、これからの問題になってくるんじゃない？

渡辺 あれは教育から全部ひっかかってくるでしょ。結局、進学がうまいかないからってんで全部ひきとめてるわけだから。

小原 でもその時点で、女の人って、母親的な考え方になってるような気がする。

渡辺 母親の意見が通っちゃうわけよ。

京田 ま、異常な母親だろうね。母親としての意見の内容が正道でないというかさ。

田代 必ずしもそうとは言えないような気がする。「子どもの教育」からはズレるけど、共働き家庭で、妻がその職場にとってかけがえのない存在だったり、仕事に生きがいを感じてる時なんか、むしろ夫の会社の転勤命令のほうが酷というものよね。

渡辺 私の親たちはね、夫婦で行っちゃったの。十一人の大家族だったから安心して行けたのかもしれないけど、じいちゃん、ばあちゃんと一緒に残った私は、そこで血縁という

ものの複雑さを思春期の頃に味わって悶々と悩んだね。母は夕方になると食事の支度しながら子どものことを思い出してたって、手紙には書いてあったけど。

京田 子どもの受験というか、進学を主体に考えるってこと自体、やっぱり異常なんじゃないかな。

渡辺 そこで旦那がつっぱって家族を連れていったら、やっぱりぶすぶすと残るのかね。

田代 ふだんから、子どもの教育には口をばさんでない父親が多いわけでしょ。奥さんに任せっきりで。だから、教育を条件にされれば、反論の余地がないんじゃない？

京田 そうだろうね。単身赴任の結果もまだ出てないしね。でも子どもの受験のために残って、どういうふうに成長していくかってこと、考えないのかね。

小原 一流会社には学閥があるでしょ。出世なんかに関して。そういう意識ってのは、父親の中にもものすごく強くあると思うの。だから父親が同意するんじゃないかな。

京田 自分を通してきて異常だと思っただけ、また自分の子どもをやるんだらうか？

小原 異常だと思っただけから、やるんじゃない？

小坂 それじゃ子どもを連れてったらいいかという、子どもは子どもなりに友達も出てくるでしょ。知ってる人で、家族そろって転勤した人が、子どもに言われたって。「父さんそんなにまで出世がしたいのか」って。

京田 ああ、そういう見方もあるんだね。

渡辺 でも、精神面の過保護だと思うな。それぐらいの環境の違いってものはね、ザラにあったんだから乗り越えろよって。それは私たちもそうでしょ。見も知らぬところへベコンと行って……。それからまた近所づきあいからコミュニケーション始まってくわけだから、条件はみんなおなじ。

小原 女の人なんて嫁さんに行くのにさ、見知らぬ土地にベコンと行くんだからさ。

小坂 ただね、おとなにとつての友達と、子ども時代の友達と違うでしょ。子どもってのは友達が一番たしかかな存在なのよ。

京田 順応性のない子もいるしね。

小原 むずかしいね。

小坂 子どもには今がすべてだからね。向こうへ行ったら新しい友達できるんだからって言うわれたって、納得のしようがないでしょ。恋人と別れさせられるみたいなのもんだし。

那須 へたすると崩壊しかねない要素は多い

んだらうけど、単身赴任でも手紙とか電話とかで上手にやりとりしてる人たちもいる。

京田 一緒にいてもどんどん離婚する時代だから、離れて密にいくつてのは疑問だね。

那須 すぐわかり合ってる夫婦なら、ある時期離れてもコミュニケーションがあつてうまくいく場合もあるだらうし……。

田代 離れて初めて相手の良さが見えてくるってこともあるよね。単身赴任の理由としては、住宅問題も大きいんじゃないかな。それと、さっき「出世」という言葉が出てたけど、低成長時代に入ってから、企業内失業者とか左遷されっぱなしのケースもふえてきて、必ずしも転勤が出世につながるとは限らなくなってきたんだって。その結果、心を侵される男性が昭和ヒトケタ世代にふえつつあるって、テレビで言ってた。

ヘレネのほしかった愛は……？

渡辺 うちは、私を除いたら男所帯なのね。

その男所帯をうまくしていくには何をしたらいいのかと試行錯誤してたんだけど、一番無難なのは母親を演じてると非常にうまくいくわけ。夫に対しても母親の気持ちでいると円滑にいく。だからここ二、三年、けんかもな

くなっちゃったけれども、その演じる時はおのすごくしんどいの（笑）。

小坂 私はできない。母親の役割は。

渡辺 できないってみんなが認めてくれればいいけど、子どもたちはどうしても「お母さん」だし、うちの旦那もどういうわけか私のことを「おかあちゃん」って呼ぶ（笑）。だから、かあちゃんをやっていると家ん中は非常にうまくいってる。

渡辺 日本の社会は、それで成り立ってきたんじゃないの？ 一生おふくろさんで。

小原 ただ、子どもができた時点で、女の人大きく変わってくような気がする。自分自身でも感じるんだけど、この映画でも、もし子どもができないで一人だけで戦争の中で生きていたなら、あれだけたくましくなれたかなって。

林 動物でも、子どもができたらずいどもを守る愛情みたいなものが芽生えるでしょ。それがなかったら育っていかないんだよね。母親が、子どもを生んでも「女だ女だ」っていう方をすれば、その子どもが満足に成長していかないんだよね。小さい子どもはまわりにいるおとなを模倣して、しつけとか知恵を身につけていく。だからそこらへんは、ある

時期、変わらざるをえないんじゃない？

京田 その「ある時期だけ」っていうのを、

今のお母さんたちはわかんないで、最後までお母さんを演じちゃうから……。

渡辺 子どもを持つことによって、社会が見えてくることってあるでしょ。今まで気づかなかった部分とか、自分も成長してる部分はあるのね。私、七年ぶりに妊娠して出産してみたときにね、女に対する優しさが欠如していたのが確認されたのね。私は、一番最初に旭川で「あんふぁんて」というグループを作った時には、「小っちゃな子どもを持てる女同士が、子どもがいるために行きたい場所にも行けない、そういう欲求を無理に押しこめるんじゃないかって、時間を提供し合うことによって助け合いましよう」ってことだったんだけど、自分の子どもが幼稚園や小学校に入ったら、小さな子どもを持つてるお母さんたちってのが見えなくなっちゃった。

京田 忘れちゃうのね。

渡辺 時間どおりには来ない。やれ子どもが病気だ、ああだこうだって言う。何だ一体ノって感じね。でも、自分が身ごもって——三十四歳すぎて夜中の一時二時に起きるなんてしんどいのよ。だけど、新聞の誕生の欄に二

十名、三十名の名前が出てゐる。ああ、あの人も私も同じように眠い目をこすってミルクやってるんだらうな、おしめ替えてるんだらうなってわかり始めてきたのね。子どもを持つてことは、確かに自分の行動は抑制されるけども、「女から女に対しての優しさ」も思い出させてくれるんだなあって思う。だから私、それを旦那に言ったんだよね。

京田 そういうのはなし聞くと、私、嬉しいね。

田代 その気持ちをお連れあいに伝えたのはヒットだと思う。映画でも、夜中に赤ん坊が泣いた時、父親の反応は「泣き声がうるさい」だったでしょ。あの種の反応を黙認することの積み重ねが、父親としての育ちを損ねてると思われるから。

渡辺 それも、子どもの成長と共に忘れちゃうのかもしれないけど、子どもってのは、心の痛みとか優しさってものを思い出させてくれるものだなって、三たび思った。

小原 独身のころ、友達が子どもつれて遊びに来るとね、どうしたらいいかわからないっていうのもあるんだけど……。

渡辺 うっとうしかったでしょ。やたらめったらさわるしね、よだれは垂れるわ(笑)。小原 もうちょっとしつけられないものかな

あってね(笑)。それと、子どもできて最初に不思議に思ったのはね、トイレに子どものおむつ替える場所があるところとないところがあるでしょ。乳母車押してて段差があるとか、今まで自分が全く無関心だった社会的な分野に目を向けられたってのは、子ども産んで良かったなと思う。

京田 視野が広がるんだよね。ま、子どものことについてもそうだけど、いろいろ言えば障害者とかさ、そういう部分も奥にはまだまだあるんだよね。そういうのを日々深くしていく努力は、私なんかも必要だと思う。

田代 女親は、妊娠や出産や子育てといった体験を通して、みずみずしい感情を味わえるわけだけれど、妊娠と出産を経験できない男親の場合は、どうなんだろう？

渡辺 私は、子どもを産んだ瞬間、母親になっちゃったの。夫のほうは、父親になるのに六か月かった。帰るのが嫌で嫌で嫌で嫌で……(笑)。帰ったら何か醜いものがあるって(笑)。六か月間、あの男はかなり寄り道してたみたいなの。

小原 逆にね、最初の頃は子どもに対してジェラシーを覚えるみたい。ハンスもそうだったと思うの。

京田 モロにジェラシー感じてるものね。

小原 最初、父親としてどうやっていいかわかんなかったじゃないかな。だって、何年かぶりに会ったときに、子どもがあとずさりして、寄ってこなかったでしょ。

田代 ヘレネは、子どもを夫の代償みたいにしてしまったような気がするの。夫がいない間、愛情のすべてを子どもに注ぎ込んだ。その結果、娘は、ヘレネの愛が百パーセント自分に向けられていないと満たされなくなってしまう。それはハンスにも言えることであってね。何度目だったか、夫が一時休暇で帰って来た夜に、子どもが泣いたためにセックスできなくて、心を残したまま再び戦地へ赴くという場面があったでしょ。あのとき、ハンスは遺書を残していくほどにせっぱ詰まった気持ちでいたのに……。

小原 ヘレネはあのとき、女じゃなくて母親になっちゃってたんだよね。

田代 ハンスが求めていたのは、母親になる前の彼女の愛だった。ヘレネもたぶん、結婚当初の彼の愛を求めていたんだと思うの。ウエディングドレスのままで新居に入ってきたとき、ヘレネはカーテンにささっていた針で、指から血をにじませたでしょ。そしたらすか

さず夫がなめてくれた。あれだったんだと思うの。ヘレネがハンスに求め続けていた愛の形っていうのは。かつてのハンスがそれを持ち合わせていただけに、ヘレネは夫の可能性を見限ることができなかった。

小坂 私も、ずっと持ち続ける (笑)

小原 でもそれは、日頃から言っとかなきゃだめよ。

小坂 時々針さして…… (笑)、八十になってもなめてもらう。

渡辺 入れ歯で? (笑)

(終)



あとがき

「ドイツ・青ざめた母」を△あんふぁんて旭川▽で上映するという。△あごら旭川▽の例会で、「脚本があったら読んでみたいね」との声あり。△見たい会▽に問い合わせたところ、脚本の載っている冊子を送って下さるという。プラボーノ「感想を話し合って、それを月刊に載せたら?」「△あんふぁんて▽の人たちにも呼びかけよう」。そんな矢先、この映画を試写するチャンスに恵まれた。読んで、視て、語り合った。△あんふぁんて▽からも数人が参加してくれた。おかげで、話題がふくらんで笑いがふえたように思われる。

「Hさん、試写の会場までバスを乗りかえるのは大変だから、車で迎えに行こうか」「テープレコーダーとテープは私が準備してくから」

「風邪がひどくて試写に行けなかったけど、やっぱり見たいのでビデオを借りて見ることにした。自分でやるから大丈夫」

お互いのしんどさを先回りして埋め合いながら作業は進んだ。そのぬくもりが、テープほどこきをする際の励みに大いになった。

『月刊』を担当するときは、いつもそれなりに全力投球である。今回の上映が△旭川あごら▽主催ではないところが情けないのだけれど、メンバーのほとんどが仕事を休んでからは互いの時間をやりくりして集まるだけがやっとの現状では、これが限界というべきか。

はとばしる母乳で『月刊』の誌面を満たせる日の到来を夢みて、これからの例会を重ねていくとしよう。

(田代記)

まだうまくいかぬみようとびようどうせいかつ
夫 婦 未 完 成 平 等 曲

美 森 成 生

わたしは永年勤めた某官署を、最近老齡退職しました。だから六十歳に近いわけですが、ふりかえって見ると、日常家庭生活の中で、いまだに男女平等の生活がうまくできていないような気がします。いまだにということ、それを心がけて来たという証拠ではあると思いますが、気がつくとき己れ(男)有利にふるまっています、ちょっと後ろめたい思いをすることがあります。心がけていながらも、自分自身ではそれが生半可な年数ではないと思えるにもかかわらず、うまくいっていないのは、それなりの理由があるに違いない、多少反省の色あひもこめて、この際、考えてみたいと思います。

金のかからぬ男女差別養育をされたこと

昭和初年という時代の影響もあったでしょうが、わたしの幼少の頃、わが家の経済状態はどん底に近かったようです。その中で、男子への優遇は金のかからない範囲で行われたことが多かったようです。二、三具

体的に記してみますと、ひとつは新聞を読む順番がきまつていて、一番最初は父親、次が男、その次が女という順で、男は兄から弟へでしたが、女は特に決まっていませんでした。夕刊については、父親の帰宅時刻の遅い時などは、男、女、父親の順でしたが、父親の手には、余計な折り目やしわの着いてない、いうなれば配達された時の状態にかぎりなく近い状態で渡すということになっていました。

次に食事の時の席ですが、食卓を板の間と畳敷きの間との間に据え、男は畳の上で女は板の間で食事をすることになっていました。

風呂に入る順番に至っては、いまだにわけが判らないのですが、男が先で女が次、何かの都合で女が先に入ってしまった場合は、男は絶対に後湯に入らないあたりさまでした。

金にかかわる男女差別は進学であつたこと

女は義務教育までで終わり。ということとは女に学問

はいらぬという、当時の世相を多分に反映した考え方であると同時に、女は結婚してしまうので義務教育以上の教育をしても、己が為、世の為に役立つとは言えぬ、という考えのようでした。しかし、男に進学を許すと言ったところで経済的な限界があるので、義務教育の一つ上のランク、今で言えば高等学校まで、あとは自分の力で行けということでした。義務教育の一つ上のランクとは言え、当時進学するのはクラス員の一割か二割程度だったので、やはり大変な優遇であったことは確かなのです。

すべてが敗戦で引っ繰り返ること

昭和二十年、敗戦後のことであつたと思います。「男女平等」「男女同権」という言葉が「正義」のひびきをもって、日常言われるようになったのは。ちょうど「民主主義」という言葉が抗弁の余地がないほど「正義」と同義語であつたように。

「臣民」として人権を抑圧されていた「人民」が民主主義の名のもと人権の解放を宣言された人間として、旧道徳の男尊女卑は不当に女性の人権を抑圧するものであり、男女平等こそ人間の正しい在り方であると考えたのは当然と思えます。まして、わたしは年齢的に言つて、青春の真直中なので、女性崇拜寄

りの男女同権の考えにかたむいて行つたのも当然のことと思えます。

ここまで考えて来て、少し判つたような気がします。旧道徳の男女不平等、男尊女卑の考え方が身に染みついていてのに反して、男女平等の考え方は、思春期の精神状況と時代精神の相乗的な勢いをもって、頭からなだれ込んだ感じがします。言いかえれば、男女不平等、男尊女卑の考えは、わたしにとって、民話に言うところの「見るな座敷」に相当し、その戸を開けないことに不断の努力をしなければならないものであつたし、現にあるのだと思います。だから俗にいう「メッキが剥がれる」という形で男女平等の考えが日常生活の中で、ときに崩れるのだと思います。

鍍金は鍍金、何年たつても純金にはなれぬこと

現実の社会の中では「鍍金も鍍金としてその外見を損なわず×年経過した場合、これを純金とみなす」式の何か折り合いをつける取りきめがあるのに、精神上的の働きについては、この便利な現象は現れないようです。

さて、一足とびに話を標題のところまで、とばすようですが、己れの夫婦の日常生活を考えてみると、わたしの考え方、反応の仕方が、男女平等と男女不平等

の間を揺れ動きながらも、夫婦であることの溶接部分（鍍金の土台部分）が分離解体しなかったのは、一つには夫婦であることの要素が、男女平等のみではないことと、二つには、ごく個人的かつ偶然に過ぎない、わたしたちに子どもがなかったということではないかと思ひます。いろいろな例を見聞して思うことは、夫婦間で比較的計量しやすい男女平等感、家事を負担する度合いであろうと思ひます。ことに夫婦双方が職業を持っていた、その間に子育てが加わった場合、女性のほうに家事負担の度合いが重くなつて行くのが、通常のように、子育てはまさに待ったなしですから、それに当面する機会の多い女性のほうに負担が増して来ることは、心情的にもうなずけることです。

わたしは、結婚するまでは十年近く、自炊生活をしてしました。それも戦後の闇市時代からの十年ですから、自分の身のまわりを処理するのは筋金入りのはずで、それに前段に書いた男女差別養育をされた項に表向き矛盾するようですが、わたしの家は家内工業的なことをやっていたので、母、姉ともに忙しく、夕食の仕度などは、その材料買いから下ごしらえまで、母親の指示を聞き聞き、よく、わたしの受け持ちになりました。大体下ごしらえの終わったところで、母親が煮炊き味つけにかかりましたから、したがって、ハレの日

の料理はともかく、ケの日——普段の日の料理に関しては母親のレパートリーはマスターした観がありました。だから、今のような豊饒の時代ではないので、自炊しなければ経済的にもたなかったこともそうでしたが、自炊生活もそれほど苦にならなかったわけです。

それでも内心では、今は仮の姿、いつか結婚しさえすれば、一家の主人として親父のように炊事洗濯から解放されて、と思つたし、反面、夫が家事を負担しても、その人格が下落するわけではないのだから、大いに機会あることに家事を行ない、理想的な夫として、浮いて来る時間は平等に等々、ああも思ひ、こうも思ひ揺れ動いていました。

いざ結婚してみると、わたしの家事に対する処理能力は、相手のうまさ、手際によさにくらべ、全くの当座の間に合わせ程度、少年の頑張り過ぎないことを思い知らされました。以後炊事をするのは、留守に自分一人が食事をせねばならない時にかぎられ、洗濯物は干す当番だけに後退してしまい、彼女が退職してからは全く家事からは離れてしまうことになりました。そうになったことについては、偶然子どもがいなかったもので、わたし自身が家事を行なわねばならない必要ない緊急場面に当面しなかったことが考えられます。そしてそれを良しとしてしまった裏側には、夫が家事を引

怪傑いんすいずバンド 不協和音 A 藤正代

き受けても、夫の人格が下落するわけではない、と判つていながらも「男子厨房に入るべからず」という言葉が、チラリチラリと顔を出して来ることは否めません。

ここで自分の齢を考え合せると、日暮れてなお道程の遠さを感じ、まさに「未完成平等曲」は永久に未完成のまま終わりそうな気がします。

夜の会に出席するようになってから一年くらい、あきもせず修二はよく妨害する。十三日が近づくと具合が悪くなつてみたり風邪ぎみになってみたり。反対されるとうれしくなってしまう性なので無視して出かけるのだが、帰ってからもぐたぐたとうるさい。この「普通のおじさん」の修二君と、奉仕と依存からなる日本の労働状況をよく理解しているにもかかわらず、弱い所（あるいは受け入れてくれやすい所）につけをまわし奉仕と依存の二重構造を展開するゆずる君とはいったいどちらが「こま、ったおじさん」なのだろう。奉仕と依存は簡単に義務と強制にすりかわってしまう。

共働きの場合、十三日に限らず、保育園のおむかえで毎日このようなことをくりかえす。九時―五時の仕事を志向しているが、普通仕事は五時には終わらない。基本的におむかえは修二がすることになっているが、四時三十分ごろ、出先から電話を入れて彼が確実におむかえが可能か聞かなければいけない。修二の仕事は病院経理なのだが、中

小医療機関ゆえ、専門のドライバーをやとうほどの余裕はなくて、未熟児などが産まれた場合、セクターに運ぶという仕事まではいってくる。病院側に救急の場合の輸送システムの確立を要請することが筋だと思うが、今のところ人命にかかわることなので、私がおむかえにいつて、子連れのまま残りの仕事（外販）をかたづけることになる。これだつて要請する側だから、要請される側にある久須美さんのことを考えるとまだ案だろう。

家事、育児は保育園のおむかえ一つを例にとつてみても、相方の仕事の時間などが複雑に入りこんでいて、あなたは「おくり」私「おむかえ」というわけにはいかない。自分たちの状況にあわせた試行錯誤をくりかえしている。この二年間で修二の洗濯とそうじは高レベルに達してきた。次は炊事二年計画。

「家事がすっかりできるようになったら、あんと離婚だ」とほざくので「今なら別れてもいいけど立派な主夫になったら、もったいなくていやだよ」と答えている。

〈あごろ〉と私、七年の歩み

塚崎 美和子

——その四——

△家の会△は非常に長命なサークルである。もう二十年以上続いているのではないだろうか。

第一次の十年は、鶴見俊輔氏、笠原芳光氏（現京都精華大学学長）、北沢恒彦氏（『方法としての現場』『家の別れ』等の著者）の三氏を世話人とし、毎月一回、京大東葉会館で例会をもつて来た。

第二次の十年は、小堀恵美子さん、安森ソノ子さん、田辺千賀代さんの三名が世話人である。会を存続させている源はたひとつ、「家」について考えレポートすることのみで、全く、規約もなければ会則もない。当日の会場費のみを負担するだけで、もちろん何の義務もない。報告したい人が自分の興味や関心に沿って報告し、みんなで討論する——ギリシャの「AGORA」もきっとそんな機能を果たしていたのではないだろうか——、終わったら皆それぞれ家路へつく。

私が△家の会△へ参加し始めた頃は、既に一歳になる子どもがいたから、いつも子連れでの参加だった（当時、夫は深夜にならないと帰って来ないので、私は母子家庭のような暮らしをしていた。もちろん子守りなど望めなかった。ちなみに、夫には長男の幼児時代の思い出や記憶など、ほとんどないのではないだろうか？）。

折り紙やエンピツ、ノート類などを持ち込んで息子をあやしがら参加。しかしながら、幼児は退屈だからじっとしていない。私はすぐ△家の会△へ出席することの限界性を感じて、会への参加を断念した。自立した単独者でなければかかわれないことを無念に思いなが

ら……。その後、△女の船を出航させる会△の合宿で、△あごろ東海△の高橋ますみさん、山下智恵子さんと出会い、雑誌『あごろ』を紹介された。もちろんこの合宿へも二歳の息子を連れての参加だった。「子連れでも何かできないか」「子どもと共存するグループは？」——そんな私の希望をかなえてくれる場所はどこにもなかった。

「必要は発明の母」——どこにもなければ、自分で創り出すしかない。子連れでも参加できる△家の会△の女性版グループとでもいうイメージで、私は△あごろ京都△を呼びかけた。△人形の会△△家の会△にはその背景に『思想の科学』という雑誌があるように、雑誌『あごろ』をグループの軸に設定したほうが、読者との出会いも兼ねられて人間関係も広がるのではないだろうかと考えたけれど、『あごろ』だけに固執するつもりは毛頭なかった。

グループの自発性を何よりも大切にしかったから、『あごろ』のテーマがかみ合わない時は合評会すらやらなかった。私自身の興味と関心は、「変動する社会にあって、どのような家族（男女の関係、親子の関係、老親の問題）を創っていくか？自己実現の道はいかに？日本型「家」をどう解体させ、個を生かせる関係性を創りあげるか？といったところにあった。

私自身、崩壊家族の長男という立場の人と結婚していたし、彼自身「野たれ死に」希望で、将来はどこかの養老院へ行くつもりだから形

ある「家」などつくるつもりはないと主張して、仕事と活動(学習会、患者会、家族会等)に没頭していた。夫に置き去りにされた私自身のこの状況をいかに解決していくか。――私にとって△あごろ京都▽は私自身のためにあった。

わたちの状況を生(なま)のまま悩みごととして語るだけでは限界がある。なんとか、この現代社会にあって女の状況の意味を読みとり、これを切り拓く視点を共に学び合うこと、論理化することを目指したいと願った。

一九七七年秋、似たようなわたちのグループがいくつも誕生した。野一色満子さんが呼びかけた△育児の中のわたち▽というグループもその一つである。わたちはそれぞれに子育て中の悩みごとを語り合った。そしてそれがひととおりの出尽くしたところで、約一年後このグループは自然解消してしまった。野一色さんは、その後離婚し、一人娘を連れて福井県の「ペロ亭」へ。そして現在は、瀬戸市で陶芸の仕事に取り組んでいらっしやる。時々便りがあり、私のほうも気が向けば『あごろ京都通信』を送ったりして京都の様子を彼女に伝えることもあるという、淡い関係にある。

グループの成長・発展・衰退・消失には様々な要因が作用する。私が東京の△あごろ▽事務局へ、四人のわたちで△あごろ京都▽をスタートさせることにしました、と電話したら、「おめでとう。早速、新聞に取材してもらおうように」と河野さんにアドバイスされ、驚いてしまった。取材があれば拒否しないけれど、こちらから売り込むという積極的なグループづくりは何かしら性に合わなかった。と同時に、東京の事務局とは上意下達の関係にはなりたくないと強く思った。「地方の自立」と言ってしまうえばカッコいいのだけれど、一九七七年一月

に創刊された『あごろMINI』に各地の△あごろ▽の一つとして、例会案内を載せていただくにとどめたいと考えていた。

一九七七年十月発足時のそもそも四人のわたちのうち二人は、まだ△あごろ▽の会員ですらなかったのだから……。△あごろ▽の会員(定期購読者)になるかならないかは、その人個人の自由に任せたままでのグループづくり。ただ私は連絡先のみを引き受け、例会の参加者に案内を送ること。例会の日時・テーマは全員の合議で決めること。報告はメンバーが相互に行なうこと(外部からの講師は呼ばない)。自分たちの興味や関心を優先させ、プロブレム・ソルビング(問題解決)を志向するなどを考えていた。

△家の会▽の例会でのすぐれたレポートは、『思想の科学』に時々載る。△家の会▽のメンバーには専門的な書き手もいらっしやるけれど、無名の書き手を掘り起こし、育てているところがある。『あごろ』にも、何かそうした機能を期待できないものだろうかと思っていたところ、七七年十月十日発行の『あごろミニ』が△あごろ東海▽の編集で発行され、続いて十一月が△あごろ北海道▽の編集、十二月は私たちが△あごろ京都▽が『ミニ』の編集に挑戦することになった。

読者から作る側への転換は大きな意味をもつ。『あごろミニ』への読者の参加は、無名のわたちの七十年代の状況を示す貴重な記録である。私たちは『あごろミニ』編集という共同作業を通じて深く交流できたし、それぞれが育っていった。私たち△あごろ京都▽の内的な成長にとって実にタイムリーな体験であったと言える。それぞれが書くことで(つまり言語化する作業を通して)、自分の状況をキチンと認識することができたからである。

出版先行型のサークルやグループとしては、雑誌『思想の科学』と

サークル△家の会▽等がかなりうまくいっているモデルケースと言えるのではないだろうか。

雑誌『あごろ』と私たち△あごろ京都▽の関係も、初期の頃はかなりうまくいっていたと思う。私の求めたものかなり近く『あごろミ

ニ』を無名の女たちの表現の場として私は位置づけていた。たとえ拙なくてもいい、専門家（学者、評論家等、およびその卵たち）でない女たちの埋もれた叫びや声を掘り起こし、光をあてていくことに大きな意義を見出し出していた。（続く）

呼びかけました集いました私たち四人

△あごろ鳥取▽——準備中——から

「いぎま」のよい女」目指して

高橋 和実

鳥取の地に〃女による女のための場〃が作れたらどんなにかウーマンパワーが発揮されるのに——と悶々と考えていた矢先、やっと言葉の通じる仲間に出会えました。そうです。△あごろ鳥取▽を名乗った仲間です。行動力の早さ〃

労働組合運動を契機として、いわゆる「階級意識」に目覚め、鳥取の地で、日韓・労働・部落解放……等、他の仲間たちと展開してきました。十年過ぎた今、個人的課題として、問い返されているのが、まさに女性解放です。その運動体の基盤作りとして△あごろ▽の結成参加となった次第。

「あいまいな部分がなく、甘えがなく、ムダがなく、自分の意見が主張できて、自らの位置を識ることができて、大地に立つことができるような〃いぎま〃のよい女」（『女たちの同窓会』向井承子より）こんな女に近づけたらと切磋琢磨の日々です……。

女たちの歴史を拓こう

前田 享子

三十三年の自己史の底流に、反面教師としての母と、中二のとき病死した父の姿を視る。人の生命のフィナーレは、ほんのちよつと手に力を込めれば赤子が息を止めてしまうに等しいほど、あつけないものであること。女用の人生が、その個性など無視され、あたかも男という太陽のための惑星的存在規定であることを意識し始めたのは、女を母に、男を父に、その関わり性を問い始めた時期と重なる。学生時代の三里塚や北富士のお母ちゃんたちとの出会いは、女が自分を生き、他者をも生かすその生き様に刮目し、五十嵐良雄氏とのそれは、自己変革へと背水を敷かれた。東京での十年近くの子どもたちとの関わり（塾）は、素敵な女たちとの出会いも含め、共に学び合う楽しさを教えてくれた。子育て業約二年の今、この鳥取の地で、女の解放を人間の解放へと視座を定め、人と人の間に子午線を設けぬ△あごろ▽へと意気軒昂な、新たな自己史、女たちの歴史を開いてゆきたいと希っている。

自己アピール

根上 昇子

△あごろ鳥取▽で唯一の二十代、といっても、もう気分は三十代の印刷会社に働く未婚の女性労働者です。

△あごろ鳥取▽を創っていかうとする私の活動の源動力は、なんといっても鳥取という狭い地域の中で、あらゆる立場にいる女性が労働・家庭・社会等々の中で日々感じる問題を持ち寄って、共に語り、論議していく「場」を作っていくことによる仲間作りにあり、また、私自身、労働現場における賃金格差をはじめとする女性差別を受けてくる中で、女性解放運動をやらなければならない立場にあることです。一人の女性にかけられる性による差別は、女性全体にかけられた差別とイコールである。個人的問題として、個人の解決にまかせるのではなく、大胆に仲間提起し、共に考え、共に学習していく、そのような場と仲間を獲得していくために、地道でも大地に根をおろした継続的な活動をし、△あごろ鳥取▽を育てていきたいと考えています。よろしく。

△あごろ▽へ入会ご希望の方は、振替用紙に住所・氏名・電話番号・入会の動機・簡単な自己紹介を振込用紙に書いて、郵便振替・東京0115264△あごろ▽へ
会費は月額600円、年額7200円。入会月より12月分まで前払いとなります。

原点は一つと視えてきて

芦谷 美鈴

鳥取本の会・家庭文庫・部落解放運動グループ「同人」、生協運動・親と子の集いを通して、子どもの本・文化・自然・食・命・合成洗剤追放・差別問題に関わってきたが、差別問題を学習していく中で、これまでモヤモヤしていたモノがスッキリし、原点は一つなのだとわかってきた。

自己変革の難しさを自分にも仲間にも痛感しつつ、地域で自主的に集うことが如何に困難か、お上サイドの使者たちの忠実なカラー視・区別・選別・差別実践に抵抗しながら、一方的な情報にも対抗するため、正しい資料を提供し続け、情報を交換し、自分をつぶされない、つぶさせないために、また集う。

怖いのは、解放運動している人が、女性差別をし、子ども差別をし障害者差別をし（軽度の人が重度の人を）と、この図式。そしてそれが、愛や優しさや、教育の中で巧妙にすり変えられること。

地域の中で、私はおそるおそる（相手に過激だと切られぬよう）発言してきた。子どもの本や、教育のことをアメモ玉にしたがら、本音を小出しにしてやってきた。いま、親は、女は、孤立させられやすい状況にある。ゆえに△あごろ▽に集う。



フがえそうとしている。この映画もそのひとつだ。たいへん気になるのは、十ヶ国語版がつくられている中に日本語もあることで、日本でも上映されれば水子像案でもついているおネが喜ぶだけではないだろうかということだ。S・D・Iに協力しようとか、もっと輸入品をふやせと強圧的なレーガンに、すぐうなづいてしまふや皆様のことだから映画の日本上陸も時間の問題だろうと思う。(7月13日) 優生保護法ができた日だー生命尊重の日あたりには上映されるのではないかという見方もあります。それですぐ優生保護法の法改正という動きにつながるかどうかはわかりませんが、中絶は悪、女は母として生きよというキャンペーンが情緒的な面から深く広くはうれる一助にはなる。この朝日の記事もそうしたキャンペーンの第一段階のようで、怒りとともに不気味でならない。

朝日新聞・東京本社
中央区 築地 五〇三二
TEL 〇三・五四五・〇一三

——個人的な追記を書きたくなったのだ——
この映画に対して「胎児は命を感じない」という議論がある。くじらは畜動物で命を悲しむと感じているから捕って食べるのは残酷だ、という捕鯨反対グループの主張を思い出してしまった。牛やブタやフロイラーはそうじゃないのか。肉を食べることも、中絶も、もしも何かの命を絶つということと考えるなら、そのものが命を感じるか否かにかわらず、その命をいただいて別の命が生まれるということに、生きてゆく方の命は何かを感ずるのではないかと私は思う。胎児が命を感じるか、中絶は否かという論議に、いや胎児は何も感じない」と反論するのは、科学としては

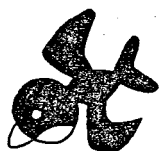


すぐやろ。

意味あるかもしれないが、中絶禁止への反論としては、禁止派にまきこまれてしまふようなれがする。事実かどうかであれ、中絶せざるを得ない事情があれば、中絶はする。そのことは保障されなければならない。その事実をどのように受けてめを生きてゆくかは、当事者の問題だ。政治が政治目的をばらんで女を追いつめるなんて、もつてのもつての外なのだ。(宗教もかう入っているけれど、政治がうみの宗教はすでに政治そのものだと思う) アメリカの中絶禁止運動が日本に影響を与えてくるとすれば、中絶をめぐると非論もまた治癒になるだろう。私たちももっといろいろな事を話し合つて、反中絶キャンペーンに取りないでいきたい。

ともこ

春だ!!
女の春はちかい。



均等法でどう変わる

A とうとうほとんど無修正で通ってしまった均等法。くやしくてくやしくて。これから大変なことになるんじゃないかしら。

B 施行は来年の四月からだけど、一番心配されているのが、時間外と深夜業でしょうね。均等法には「均等」を保障する部分と労働基準法の改悪とが抱き合わせになっているけど、「均等」を保障する部分の実効が発揮されるのは恐らく遅々たる歩みになるのに、労基法の保護の撤廃は、すぐにも発効するわけだから……。

A すると、来年四月以降は、時間外も深夜業も、野放しになるの？

B そういう心配があるということで私たちは反対運動を続けてきたし、国会の社労委でも、そのへんを繰り返し質問してるけど、政府側は「そういう心配はない」と何度も答弁しているのね。均等法が成立した今となっては、それを逆手にとったかうのが方法ではないかしら？

A 具体的には、どう変わるのかしら。

B 深夜業については管理職・専門職の規制

が外された。それ以外は仕出し弁当とタクシー業に限る、それも本人の申し出があったときだけ、という答弁が何度か出てるけど、管理職・専門職とは何を指すのかといった細かいことは、全部婦人少年問題審議会労働部会の審議を経て決定することになっている。

時間外労働は、工業的職種——つまり現場労働者は現行どおり。非工業的職種は緩和で、専門職と管理職に限り規則が外されるのだけど、これも細かいことは、婦人少年問題審議会を審議を経て決定することになっている。

A すると、国会は婦人少年に白紙委任したわけ？

B そういうことになるからおかしい、というのを、土井たか子さんはじめ何人もの人が繰り返し追求したんだけど、政府としては婦人少年の良識を信頼するという答弁で終始して逃げてしまった。

A で、具体的にはどういうスケジュールで進行するの？ その「省令」とか「命令」とか「指針」とかは。

B 推測だけど、叩き台となる労働省案が九

月には出され、それに基づいて婦人少年の審議が始まるのではないかと言われている。

A じゃ、まず、労働省案が問題ね。

B そう。今度こそ、赤松局長はじめ婦人局の女性官僚の方々に頑張っていただかなくちゃ。

A ほんとに期待できるの？ 平等法が均等法にすり変わった経過を見ても、あたしはもう信じられない。

B 悲観的に見ればそうだけど、少なくとも女性官僚の方々は、差別のくやしさを身に沁みて感じていらっしやると思うし、国会で、大臣も局長も、差別はよくないものだ、ということは何度も明言してる。いまここで攻撃的なことを言うよりは、私たちの実情をできるだけ具体的に書いて、規制解除がどんなに大きな影響を及ぼすか、こういうことをされどは困るということは文章にして婦人局に渡し送ると、叩き台をつくる側も証言になるんじゃないかしら。

A なるほど。じゃ、書いて書いて書きまくろう！

B 場合によっては内容証明でね。必ず手書きにすることが大切だと思うの。印刷物は送っても束にして積まれるだけみたいだし……ハンストや座り込みに比べれば、手書きの手紙を送るのは、誰にでもできる運動だと思うけど。

A そうね。私たちの命運がかかってるんだものね……。でも、最悪の場合、専門職や管理職が拡大されて適用されたらどうなるの？
B 国会の答弁では、「労使協定の範囲にとどまるから大丈夫だ」と繰り返し言ってるわね。

A いわゆる悪名高い三六協定の範囲になるんでしょう！ つまり野放しに……。

B ただ、従来の労使協定では、男子社員に限定しているところが多いと思うの。女子社員を含む場合には労使協定の結び直しになるでしょうね。

A とすると、婦人部の出番……。

B ということね。三六協定は今でも評判が悪いのだから、時間短縮へ向けて、むしろ男子の労働条件もよくする方向に引っ張っていくくらいの気持ちで頑張らないと。だから、これは婦人部だけの問題じゃない、男の人にもすごくかわることだ、ということを経組

の中で繰り返し言っただけじゃないとね。

A ほんと。女が残業するようになれば、まず窓際族から肩叩きが始まる……。

B 能力の査定もきびしくなるでしょうし、男も女も全くボヤボヤしていられない大問題よ。

A それで組合のないところはどうなるの。女の八割は未組織労働者でしょう。

B 労組がなければ労使協定もないわけだけど、労働基準法で、週四十八時間労働以内ということは定められているから、これを上回る残業をさせると事業主が罰されることになるわね。

A えっ！ でも週四十八時間労働になったら、とても家庭と両立しない。

B 事業主としても、にわか週四十八時間まで拡大することはできないと思うの。就業規則や、就業時の契約を変えるときは、当事者同士の合意が必要だから。

A なるほど。言いなりになる必要はないわけだ。

B それでも強行したり、合意しない者はクビにするぞというようなオドンをかけられたら、すぐ、機会均等調停委員会に訴えるといい。

A あれ、だけど事業主側が出頭に同意しないとダメなんでしょう？

B そのへんも国会で何度も質問しているわね、形だけになるのじゃないかと。それに対して、同意を得られるよう、婦人少年室が努力する、ということも何度も答弁している。この答弁をタテにとって追求することね。しつつこく、しつつこく……。

A それでも知らんぷりされたら？

B それこそ『あごろ』でもジャンジャン書き立てましようよ。差別企業の名を。企業イメージがダウンするから、あわてるでしょう。

A うーん。それはおもしろい！

B 〆女を泣き寝入りさせない会〰をつくらとかね。

A そうそう。調停委にガンガン申し立てるのも方法ね。

B 法律はできたけど調停委は閑古鳥、みたいなことになったら大変だし、向こう側が悲鳴をあげるくらい、ワツと申し立てたい。差別は今でも山のようにあるんだから。

A でも、弁護士さんかなかに相談しないとダメなんでしょう？

B あらかじめ相談したほうがベターだけど、相談なしでできるものもたくさんある。

「こんなことがあったら訴えよう」という事例集を、これから毎月、月刊『あごろ』に掲載していくから、どんどん参考にしてね。

それに、女性弁護士の方たちも支援を申し出てくださってるので、△あごろ▽はか、置ける範囲のところに△差別110番△を置くつもりだし、△民労審▽もつくるつもり。

A ワーイー！ 頑張ろう。

あつ、ところで大事なことを忘れてた。均等法ができる、生休はとれなくなるの？

最大限活用しよう！

先手を打たれないうちに

A //均等//を保障する部分も力が弱いんでしょ、実際には。

B このままでは不完全だということ、みんなでさんざん運動してきたわけだし、これからも、不完全な部分は改善するよう運動を続けなければいけないけど、女性差別は憲法違反だということを曲がりなりにもうたった法律が成立した以上は、最大限有効に利用するほうがトクなんじゃないかしら、これからは——。何しろ野党四党が揃って反対して、国会でもずいぶん審議を重ねて、その追求の度、政府側は「実効あるものだ」という答

B そんなふうに女性週刊誌が書き立てたのて思い違いしてる人が多いみたいだけど、生休暇はちゃんと残ったの。だから絶対、ごまかされないようにしないとね。

A もしも会社側が「これからなくなる」と言ってきたら？

B 就業規則の変更になるわけだから、簡単には変えられないことを主張するのだから、それでも強行しようとしたら、それこそ調停委に訴えるのよ。

弁をしているわけだから、政府としても、義理にも「実効あるもの」にしないかならないでしょう。

A かんじんの部分が、全部「指針」や「省令」で決まることになってるのめへんな話ねえ。

B そう。だから、労基法関連の部分と同じように、叩き台をつくる労働省に、集中的に手書きの手紙を出して訴えることが大切ね。それと、審議会でキャスティングボートを握っているのが公益側だから、そこにも働きかけないと……。

A あいつらに、うんと攻撃かけないと……。

B さあ、「攻撃をかける」というよりは、私たちの実情を繰り返し繰り返し訴えることが大事だと思うの。放置するのは人道に反することだ、と、心の底から思っていたけるように。女の人たちがどんなに苦しんできたか、そして今も苦しんでいるか、ということ

A う——ん。……そう言えば、NHKの『密室の攻防』でも、公益側は、配置・昇進

については罰則つきにしようとしていたのに、労働省の働きかけで急に努力義務に変わったという内幕が暴露されてたなあ。もうひと息、公益が頑張れるだけの資料や手紙を、山のように出しておけばよかったのかな。

B とにかく、事実に基づけられた手書きの手紙は効果があるようよ。

A ところで、一番もめた入口差別、募集・採用は努力義務なんでしょう。

B 努力義務にしても、今までのようにゼロということではないもの。細かいことはこれも「指針」で決まるわけだけど、少なくとも来年の四月以降は、「男性大卒募集」「男性幹部募集」なんていう広告ではできなくなると思う。

A そうすると、△BOC√みたいにな、「女子社員求む」もひっかるわけ？

B そうなるわけ、きつと。だから今年のうちに求人しておかなくちゃ（笑い声）。ただね、「スチュワードス募集」みたいのは許されることになりそうだけど。

A 配置・昇進の差別の内容も「指針」で決まるの？

B そう。これも、給料の表で、男はA級、女はB級みたいな分け方をするのは、禁じられると思う。

A だけど「努力義務」だから、「ハイ、今後は努力します」と言えば尻ぬけになるんじゃないの。

B そうはいかないでしょう。少なくとも同一の職種については、秋田相互銀行など、判例もたくさん出ているし、裁判で争えば必ず勝つわけだから。労働省案にどれだけの内容を盛りこんでもらえるかは、これからの私たちの運動にかかっていると思うけど。

A そういうことか……。教育訓練、福利厚生は罰則つきなのよね。

B そう。これも、内容は「労働省令」で決まるわけだけど、研修を、「管理職コースは男子だけ」なんてことにするのはもちろん禁

じられるでしょうし、扶養家族手当や住宅資金の貸付を男子だけにするのも禁じられると思う。

A そんな細かいことまで決めるわけ？ 住宅資金はともかく、扶養家族手当なんかは企業側が猛反対するんじゃないの？

B ただ、これも最近女の労働者が勝訴したでしょう。まして、今度女性差別撤廃条約が批准されれば、条約違反ということになる。

だいたい給料に「扶養家族手当」を入れている国なんてないもの。あれは、独身者と女に対する合法的な差別だし、給料の中にまで「家制度」を入れた、それこそおかしい制度だと思うけど。

A なるほど。でも、それを取り払うとなると、組合の側にも抵抗があるでしょうね。

B だから取り払うんじゃないくて、給与体系そのものの全面的な見直しが必要になるでしょうね。だいたい、本給が少なくて諸手当が多いというのは、企業にとってはすぐ都合のいいことよ。退職金何んか月分なんて言っても、それは本給×月数ということが多いんだもの。

A すると、均等法がひきがねになって、賃金体系の大変革が起こる……。

B というふうに企業側は読んだから、あれだけうろたえたんだと思うけど。でも、彼らもよく考えてみると、これは男の労働者と女の労働者の対立になるぞ、シメシメって思っ

たかもね。

A じゃ、そうは間屋はおろさないってとこを見せなくちゃね。

B そう。これからはますます男女の共闘が必要。労組はもちろん、いろんな局面で。

A 定年・退職・解雇は禁止規定よね。

B そう、これはもう判例がたくさんあってどうしようもないって、向こう側でもあきらめたんでしょ。でも今までは根拠になる法律がなかったわけだから、強い行政措置の網にひっかかるし、裁判で争うまでもなく、差別はされないことになるでしょう。

A 均等法も、案外いい面もあるのね。

B とにかく成立した以上は、できるかぎり活用しなくっちゃ。

A そうね。産休が延びたのもよかったね。

B そう。今まで産後六週間だったのが八週間、ふたご以上の多胎児は十週間になった。そのうち強制的に休む期間も、今まで五週間だったのが六週間に延長された。

A 差別撤廃条約でも、「母性の尊重」をうたっているもの。将来は最低十週にしくち

TOPICS / TOPICS

とうとう成立「均等法」

全野党が反対、激しい質問が浴びせられるなか、5月17日、前号既報の二点の修正のみでついに成立。最終日の参議院本会議は、与野党とも全員女性議員を繰り出しましたが、女性と言っても、与党は党の統制に従わざるを得ない側面をまざまざと示し、傍聴席からは深いため息……。九月に叩き台が出されるという「省令」「指針」の内容へ向けて、さあ、これから最後の努力を。

児童扶養手当も「改悪」成立

未婚の母への支給打ち切り、支給期間を七年に制限などで、「女の生存権の侵害」と猛反対運動がまきおこった児童扶養手当「改悪」は、現行どおり未婚の母へは支給、また、子が十八歳になるまでは支給、と修正されましたが、離婚した父親の所得制限は、原案の600万円が750万円になり、養育費が一年

や。
B そう。差別撤廃条約がまたすばらしいの

すぎても送られてこない場合は支給されることに修正はされたものの、現行より大きく後退、全額国庫負担だった財源も、都道府県の二割負担になりました。

中でも影響が大きいのは、手当額の二段階制。従来年収361万円未満は32、700円、361万円以上はゼロだったのが、171万円未満は33、000円、171万円以上300万円未満が22、000円となり、300万円以上はゼロになりました。

死別者には年金、離別者や未婚の母には児童扶養手当と、生別か死別かで差別する制度が元来おかしいのに、「離婚者が急増して財源が涸渇した」と称して支給額を切り下げたり、制限を設けたり、さらに二割を自治体に肩代わりさせることにより支給権限を知事に移行させ、一段ときびしい窓口行政体制を敷くことは、明らかに「家庭基盤」の充実政策。現在でさえ、死別者の半額なのに、離婚者いじめとしか思えませんか。

よね。読めば読むほど胸がワクワクするけど、これは来月号にね。

差別撤廃へ

市当局も驚く行動計画案

差別撤廃へ向けての行動計画は、各自治体ではほとんど策定が終わろうとしています。婦人の十年の最終年に持ち込んだ東京・国立市の婦人問題行動計画策定委員会（沢登敬子委員長）は、委員15人のうち13人が女性のせいか、①全市民を対象に年10回、婦人問題の学習会②休日や夜間も開く婦人問題総合相談事業③日常生活の中の性別を探究調査研究④女の新聞を年6回発行⑤性差別のない町づくりに向けての市民のつどいを毎年開催⑥婦人問題図書資料の収集⑦昭和70年に婦人総合センター建設⑧ことし10月に「性差別撤廃都市宣言」などスゴイ内容。「行政計画とするにはかなりの手直しが必要」と市当局は困惑顔。支持する女性たちは5月25日「行動計画を知る会」を開いて一歩もひかない構え。成功して全国の自治体に波及するといいですね。

230人が深夜まで話し合い——第二回国際フェミニスト日本会議

6月1、2日、国立婦人教育会館で開かれた第二回国際フェミニスト会議は、当日参加も含め300人近い女が集まり、17の分科会でさまざまな討論が展開された。

1日目は、小西綾さんの話にはじまり、「女の自己防衛」など5つの分科会、夜は体育館で交流パーティー。そしてロビーでギターにあわせて歌い、かつ飲み、遅くまで日本語、英語、フランス語、スペイン語……が飛び交った。2日目は早朝から座禅、合気道、9時からは「女と教育」、「からだほぐし」、「レズビアン自立」など12の分科会が持たれ、午後4時閉会式。さまざまな意見問題提起があり、参加者全員の歌で閉会となった。

しかし、欧米人の参加が圧倒的に多く、分科会は通訳がついたものの、英語主体で進められ、輪の中に溶け込めない日本人もいたこと、日本以外のアジアの人たちの参加がほとんどなかったことなど、多くの不満を感じながら、嵐山を後にした人もいたようである。ただ、この会議に参加した日本人の間で、

画、アイデアなど、どんどん出てきているので、次回をもっと身近な問題をおもしろく、またインターナショナルの名にふさわしい参加者で、盛り上がるものが期待できそう。

＊嵐山で感じたこと＊ 福本のり子

国際フェミニスト会議に参加したが、思うことの多い会議だった。大体「国際」といっても、欧米人と日本人だけで日本以外のアジアやアフリカからは来ていない。とびかうことばも、英語と日本語だけ……、これはかなり異様なことではないだろうか。

世界が欧米諸国と日本だけで成りたっているわけではないのだから、こういう片よった会議（それ自体が悪いとはもちろん思わない）には、「国際」ということばは使うべきではないと思う。アジア・アフリカ会議式に、日本・アメリカ・ヨーロッパ会議、あるいは日本人・白人会議といった方がすっきりする。そうすれば抜けおちているものがはつきりして、自分たちのおかれている立場も明らかに。

このことと関連があると思うのだが、日本人の中で英語をしゃべりたがる人が多かったのは、同じ日本人として淋しい気がした。会議の席上、日本人であるにも拘らず、まず英語でしゃべる、それからつけ足しの様にして日本語でしゃべる、英語でしゃべるほうが自分の言いたいことが正確に伝わるのならそれもいいが、どうみても日本語のほうがペラペラなのだ。彼女は、欧米人が半分以上いたので、英語をえらんたのかもしれないが、問題は、その時、彼女が自分が日本人であることを、どのように感じていたかということだ。

また、「性の商品化」という分科会に出たとき、「通訳して下さい」と言った人に向かって、同じ日本人が、「英語のわからない人はわかる人のそばに行ったら？」という場面があった。英語をわからないことは、まるでいけないことであるかのように……。

日本にきている多くの欧米人が積極的に日本語を学ぼうとしないのは、日本語が特別むずかしいからではないと思う。多くの日本人が、東南アジアにかけても、その国のこと

感性がなければ、フェミニストの名に値いしないのではないだろうか。

びと。10万そこそこの月収の中から積み立ててきたのです。頑張って4つの分科会を用意

したのも、英語ペラペラの人だけが参加できる会議ではない、あたりまえの日本の女の会を開き、そこに各国、特にアフリカやアジアの人びとを呼んで一緒に考えたいから。だから最後まであらゆる手をつくしてみます。

分科会は、①労働の中の差別②戦争と差別③人生の選択の差別④女の情報ネットワークを、の4つ。充分な準備はできませんが、沖縄や部落の問題も盛り込んで、日ごろ考えていることを世界のフェミニストと考えたいと思っています。水も食糧もないアフリカで開かれる会議。「日本程度の差別を語れるか」

という意見もありますが、そのアフリカだからこそ何かが見えるはず。アフリカ・南北問題・女の問題を勉強し直しながら、いままんなで話し合っています。「たとえ航空券がとれなくても、ここまでやったということが、私たちのナイロビの旅ね」と。

(あぐら旅の会)

を、の4つ。充分な準備はできませんが、沖

分科会は、①労働の中の差別②戦争と差別③人生の選択の差別④女の情報ネットワークを、の４つ。充分な準備はできませんが、沖縄や部落の問題も盛り込んで、日ごろ考えていることを世界のフェミニストと考えたいと思います。水も食糧もないアフリカで開かれる会議。「日本程度の差別を語れるか」という意見もあります。そのアフリカだからこそ何かが見えるはず。アフリカ・南北問題・女の問題を勉強し直しながら、いまみんなで話し合っています。「たとえ航空券がとれなくても、ここまでやったということが、私たちのナイロビの旅ね」と。

(あごら旅の会)

〈女のつどい・女の講座〉

日	時	テ	マ	会場・連絡先
6月15日(土)	13:13	「性差と女性解放」パネルドイスカッション	075-731-2076	京都市社会教育総合センター
	13:13	あこら旭川・例会		小坂宅 0166-822-035301171
	13:13	「地域に高齢者福祉の実現を」シンポジウム	樋口恵子ほか	日本教育会館8F 035301171
	13:13	「キャリア・グリーナムホーム」ビデオ上映会	036138402	東京都婦人情報センター
	13:13	均等法成立に抗議し働く女性のこれからを考える	討論集会	東京都勤労福祉会館033579565
	13:13	「性差と女性解放」分科会 藤枝裕子 他	075-731-2076	京都市社会教育総合センター
	13:13	「つづな日本の農業」△日本消費者連盟△	037117766	国民生活センター大会議
16日(日)	13:13	あこら大阪・例会		藤井宅 063876574
	13:13	反トマホーク・アジア太平洋デー16・16全国行動	集会とデモ	明治公園 実行委0338131593
18日(火)	13:13	「おもしろ学校のいちど」映画とおはなしの会	034161164	世田谷区梅丘保健所
	13:13	「女たちの映画祭」(7月7日まで)		池袋文芸坐&ル・ピリエ
	13:13	「変容する家族」シンポジウム	実行委 0338023141	京都市社会教育総合センター
21日(金)	13:13	「若い女性へのメッセージ」公演・神津カンナ	0344347575	芝エレガンス(日本女子会館) 2Fホール
22日(土)	13:13	女の文化人類学「サモアの女性」山本真鳥		福岡市立婦人会館
23日(日)	13:13	あこら九州・例会		あこら版事務所
	13:13	あこら武蔵野・例会		渋谷パルク・バート3
	13:13	「シンデレラ」青い鳥公演(30日まで)		下関勤労福祉会館
	13:13	「女ならやってみな」上映会	森川 0832463181	大阪府立婦人会館 075-4618048
	13:13	「男と女が役割を文書してみた」多田秀実	△日本女性学研究会△	中野勤労福祉会館 0561392308
28日(金)	13:13	あこら東海・例会		石川方 加藤宅
30日(日)	13:13	あこら佐世保・例会		佐世保市立図書館
7月5日(金)	13:13	女の文化人類学「ソ連の女性」板内徳明		藤沢明治公民館(辻堂駅下車)
	13:13	あこら湘南・例会		江東区文化センター 033644811
	13:13	講座「女たちは明日に向かって」△新宿労政事務所△		中野サンプラザ8F 集会室1
	13:13	女の文化人類学「バリの女性」太田和子		江東区文化センター 033644811
7日(日)	13:13	あこら山口・例会		森川宅 08332463181
12日(金)	13:13	あこら佐世保・例会		調布市立図書館
13日(土)	13:13	講座「男女雇用機会均等法」△新宿労政事務所△		佐世保市立図書館
19日(金)	13:13	「女の文化人類学」△日本の女性 綾部裕子		中野サンプラザ8F 集会室1
	13:13	「平和教育と国際理解」△日本女子社会教育会△		芝エレガンス(日本女子会館) 8F講義室
	13:13	あこら九州・例会		福岡市立婦人会館
22日(日)	13:13	講座「自分史を語る」		中野サンプラザ8F 集会室1
22日(日)	13:13	第31回日本母親大会 分科会		横濱文化体育館 他

公益側委員と女性官僚に手紙を出そう！

ほとんど修正なしで成立した『均等法』。専門職・管理職の範囲や、教育訓練・福利厚生の中身などが、すべて今後の「指針」「省令」で定まることになっています。労働省がその原案を提出するのが9月。婦少審で年内に審議され、来年4月から施行される予定。この7、8月がヤマ場です。専門職・管理職の範囲を拡大されないように、教育訓練・福利厚生の中身を薄められないように、あなたの職場の現実を具体的に記して、決して人権が侵害されないように、強く訴えましょう。決して攻撃的にならず、思いあふれる言葉で、私たちの希いを生かしてほしいと……。印刷物は不可。必ず手書きで。(28ページ参照)

〔公益側委員〕

青柳 武(毎日新聞元論説委員) 〒100東京都千代田区一ツ橋1-11-11

渡辺道子(弁護士) 〒108東京都港区高輪2-11-15 伊皿子アパート306

和田勝美(元労働省官僚) 〒164東京都中野区中野4-11-11 全国勤労青少年会館館長

〔労働省女性官僚〕 〒100東京都千代田区霞ヶ関1-2の2 労働省

赤松良子(婦人局長)

佐藤ギン子(労働大臣官房国際労働課長)

松原亘子(婦人局婦人政策課長)

夏の合宿は鳥取で！

行動力抜群のへあごら鳥取Vが引き受けてくださいました。8月下旬・1泊の予定。日程と会場は前田享子さんにお問い合わせを。ナイロビ会議の報告もあります。

〒680 鳥取市古海1-147 高草団地9号室 0855-233074 前田享子

『あいら』100号

均等法成立

そして、いま

刊 近

AGORAZEIN●成立——そしてこれから

天野和明／井ノ部美千代／金住典子／駒野陽子／仁木ふみ子／林 陽子／斎藤千代
衆参両院国会議録●1984年6月26日—1985年5月17日

誌上再録●密室の攻防 ●『密室の攻防』を見て 解説●均等法でどう変わる

随想●私にとっての平等・保護 三好久美子ほか 報告●アメリカの女性学 杉本貴代栄

〔編集後記〕

清書(といふには雑な字になりましたが)を続けているうちに夜が明けて、その朝、かっこの初鳴きを聞くことができました。北海道では、かっこうが鳴けば畑に何を植えても大丈夫とされています。

今の季節、植物たちは生命力があふれ、鳥たちの声もとびきりステキに感じられます。北国の新鮮な空気と、生きものたちの息吹きが誌面のすみっこになりとも伝わったでしょうか。

均等法についてに成立。児童扶養手当も改悪。しかし、条約の批准は間近。条約を精いっぱい活用して、禍を福に転じましょう。

(旭川・田代慶子)

今度こそ頑張ってくださいね、労働省の皆さん！ 女たちみんなで、心からの乾杯ができるように。さあ、手紙を書こう！ たてえ病床からでも。

(事務局)

(誌面の都合で「老人を介護しながら」は休載します)